No. 102

ティー・ブレイク

Tea Break

携帯電話にお世話になっていますか？

特許庁 IPDL の特許公開公報のフロントページ検索で，キーワード「携帯電話」で検索をすると，17,597 件の表示がされる（2004 年 11 月 24 日）。一般には，携帯電話は上位概念で書くはずですから，こんな数ではないでしょう。業界も，かなり携帯電話関連出願にはお世話になっていることと思う。

筆者も，「携帯電話の転送」「携帯電話のセキュリティ」等希に関連の出願の依頼が来る。原理は理解しても実際の使い勝手が分からない。そのたびに，使っている方々に実情聴取し，「〇〇携帯電話」などという入門書を紐解く……。そう。私は，携帯電話を持っていない。

「携帯に連絡しますので，番号を教えてください」「え！持ってないの！！」更に「信じられない」「良く生活できるね」という付録まで言われることもある。しかし，周りが心配するほど生活に支障は無い。

確かに，待ち合わせに遅れる時の連絡や，公衆電話がみつからない時には，必要性を感じる。普段は，ほとんど事務所に連絡すれば済んでしまう。外出先はクライアント以外では，日本弁理士会の会議室くらい。休日に希に（？）家に居ることも。3 箇所に連絡すれば，ことが足りる（悲しい！）。友人との連絡は，ほとんどパソコンメールで済んでいる。1 分 1 秒を争う緊急事態は，まず無い。別の用事があっても何時間かすればホームポジションに戻る。

周りでも携帯を持っていない人は，実際，少数派である。いつもパチンコ屋で癒されている IN さん，週に数日は飲み屋で一人酒を楽しんでいる WK さんは，至福の時を邪魔されるのが嫌で持っていない。

「携帯を持たなければいけない」「携帯で電話をしなければ，取り残される」という架空需要に躍らされ携帯を購入しているのではないか。無理矢理，会話・通信をしているのではないか。そんな方々が，ふと気付き，携帯の契約者の 0.1％が「携帯はもういらない」とか，「通話量を半分に減らそう」と考えて，解約や通話通信の抑制をし始めたら，後は雪だるま式に，携帯の解約が進み，携帯関連産業に倒産が相次ぐ。という「携帯電話バブル崩壊説」を筆者は唱えている。

「馬鹿じゃない！」「こんな便利なモノ誰が手放すと思う？」「持てない人のひがみ」「妄想」と，携帯 mail 早撃ちを誇る同居人には一蹴されてしまう。

持てないわけではない，新しいモノが大好きの筆者としては，携帯に関しては完全に乗り遅れてしまったのだ。「今更，持てるか！」という，あまのじゃく的な発想が，実情である。

時々，帰りの電車で，座席一列（7 名）全員が折り畳み式の携帯電話をパコッと開いて，一斉に mail をしている光景に出くわす。何とも異様である。

行きつけの銭湯に，「脱衣所への携帯の持ち込みはご遠慮ください」「誤解を招くおそれがあり，また他のお客様の迷惑になります」との掲示がされた。確かに素っ裸の中にカメラの持ち込みはマズイ。カメラ付き携帯の影響はこんな所にも。かつては，風呂あがりの一服のように，脱衣場で携帯を使って会話している方々がいたが，一掃されてしまった。

先日，初めて TOEIC なるモノを受けた。始まる前に「携帯の電源チェックをします」と言って，一斉に受験者が携帯を机の上に置き（周りを見ても出していないのは数人），試験官が電源が切れているか否かを一人一人調べて廻っていた。え～！

携帯を出していない私に試験官は「携帯はお持ちでないですか？」とわざわざ聞く。持っている人が出すだけだろう。持っていることが当然か？！と多少の怒りを込めて，「持って来ていません」と見栄を張って答えた。

それにしても，昔は，試験中にピィーピィー鳴っていたのであろうか……。

また，最近は，映画館で呼び出し音を鳴らす人は，さすがにいないようだが，光が問題になっているという。液晶画面が明るくなり，携帯で時間を見たりする際に，画面の明るさが目立つのだそうだ（そういえば最近映画を見ていない……トホホ）。

携帯の“害”について書いているうちに，自分の行動範囲が狭いことに，悲しくなってきた……。

という原稿を書き上げて，暫く寝かせておいた間に，諸般の事情により，軟弱者の筆者は，携帯を買ってしまった。新しいモノ好きとしては，当然最新機種。　（CHU）